

音楽による教育活動や社会貢献を試みる「kyoumei」の設立

The establishment of "kyoumei" that attempt to educational activities and social contribution by music

杉原亨[†]

Toru Sugihara[†]

[†] 関東学院大学 高等教育研究・開発センター

[†] Center for Research and Development of
Higher Education, Kanto Gakuin University

柴田ゆき[|]

Yuki Shibata[|]

| Kyoumei

| Kyoumei

柴田元広[‡]

Motohiro Shibata[‡]

[‡] Kyoumei

[‡] Kyoumei

<概要> 2015年3月、音楽による教育活動や社会貢献を軸に活動する任意団体「kyoumei(きょうめい)」を設立した。Kyoumeiで扱う事業は、多種多様に存在する教育手法の中でも、「音楽」を人間性や人格育成における「教材」として活用していることが最も大きな特徴である。事業としては大きく次の4つを想定しており、逐次実施する予定である。4つの事業は、すべての人間が自分らしく生きられるための「教養教育(リベラルアーツ)事業」、音楽を教材に使用し集団社会における多様な価値観を学ぶ「人づくり事業」、経済による文化資本及び教育格差の社会認知と解決策を提示する「教育基金事業」、**“音楽”**の社会的な影響について調査・研究を行う「政策提言事業」である。

<キーワード> 音楽 教育 社会起業 リベラルアーツ 格差

1. Kyoumeiの設立

近年、日本においても「社会起業家」という言葉が共有され始めてきた。社会起業家は「医療、福祉、教育、環境、文化などの社会サービスを事業として行う人たち」と定義されている。(町田,2000) 具体的には、貧困地域での教育支援、ホームレス自立支援、地域コミュニティ再生活動、女性への起業支援など、世界中で多種多様な活動が行われている。(渡邊,2007) 日本でも数多くの社会起業の団体が活動している。教育をテーマとした代表的な社会起業の団体であるNPOカタリバは、大学生のボランティアが高校生と語り合うことを軸としたキャリア教育の授業を全国各地で行っている。

また、本研究の対象である音楽を取り巻く環境は年々厳しさを増している。各種オーケストラなどで、ヴィオラを演奏する音楽家である共同研究者の柴田ゆき(kyoumei代表)は、2008年に起きたリーマンショックによる経済状況の悪化により、家庭の経済的な事情で音楽を辞めていく子供が激増したのを目撃し、芸術は“無駄なもの”であるという風潮を体感してきた。一方で、文部科学省の調査では、親の普段の行動と子どもの学力に関係性があるという調査結果が発表されており、その中で、普段から美術館やクラシック音楽のコンサートに行く親の子どもは、学力が高くなる傾向を示している。(文部科学省,2009)

そのような社会情勢の中、2011年3月11日東日本大震災が発生し、音楽の存在意義がさらに問われる状況になっていった。柴田は震災後、2012年に東北にて演奏活動を行った。その際、音楽を基軸とした社会起業という手法にて、教育格差などの社会問題を解決することを思い至った。行政の相談機関や、金融機関、及びNPO団体への相談などにより、事業構想を精緻にした後、2015年3月に任意団体として「kyoumei(きょうめい)」を設立した。代表理事に柴田ゆきが就任し、教育事業全般を担当する。メンバーとして共同研究者の柴田元広が参画し、事業全般のサポートやIT関連業務などを担当する。アドバイザーとして筆者(杉原)が高等教育全般の動向などを踏まえた助言を行う。活動拠点は岐阜県多治見市を中心に、愛知県名古屋市、長久手市、日進市を想定している。

2. Kyoumeiの理念

すべての人間が今日より明日に、より良い希望が持てる豊かな社会、すなわち「教育により多様な視点と価値観を持つ人材を育て、今より豊かな世界を創造すること、同時に固定された貧困を教育によって解消すること」を実現するために、“社会の今ある常識を疑い、未来につながる新しい社会への価値観を示す”ことを志向し、その方法として「教育」とりわけ**“音楽”**を基軸として活動する。

3. Kyoumei の事業

Kyoumei では、上記理念を実現するために下記事業を行う予定である。Kyoumei で扱う事業は、多種多様に存在する教育手法に中でも、「音楽」を人間性や人格育成における「教材」として活用していることが最大の特徴である。

【Kyoumei academy】

すべての人間が自分らしく生きられるための「教養教育（リベラルアーツ）事業」。

テーマは「学ぶ、実行する、小さな成功体験」。音楽を学問のように学ぶ、がコンセプトで、楽譜を中心にすえた教材で音楽を幼児期より知育教育を実施する。楽譜には歴史、哲学、数学、語学、経済などさまざまなエッセンスが盛り込まれており、それらを子供に合わせた教材にアレンジし、学ぶ。それと平行して身体を使い学んだ楽譜を実行するため、楽器の演奏方法や身体を使って音楽を学ぶ（指導する楽器は弦楽器のみ）。学んだ音楽を身体で表現し、外部に発表することで小さな成功体験を積み重ね、自己肯定感を幼少期より高める。

【Kyoumei Orchestra Community】

音楽を教材に使用し集団社会における多様な価値観を学ぶ「人づくり事業」。

ある一定レベルの教育を受けた子供を集め、弦楽合奏の指導を実施する。年齢は小4〜でクラスは初級→中級→上級となり、上のクラスに上がるにはオーディションに合格する必要がある。ただし、年齢関係なく一定のレベルに達していれば上級へ移行する。また、演奏するポジションによって役割が与えられ、自分がどこのポジションを目指すのか、子供自身が選択しそれに伴いオーディションを受けることが出来る。上級まで進んだ子供達は音楽家と共に社会活動（コンサートなど）を行う。子供達は早期より社会と接点を持つことで多様な価値観を学ぶ。

【Kyoumei 基金】

経済による文化資本及び教育格差の社会認知と解決策を提示する「教育基金事業」。

教育基金を設立し、社会的弱者である親子に芸術を対象とした教育バウチャーを行う。子供の貧困などの社会問題の実態を広く世間に知ってもらうための広報活動や Kyoumei の理念に賛同してくれる市民、企業、行政からの賛助、寄付の呼びかけを行う。kyoumei に所

属する音楽家と、kyoumei に参加した子供達を中心となり活動する。また、教育バウチャーを受けた子供達が社会活動を一緒に行った場合、その活動実績に沿って18歳卒業時に奨学金を提供する。同様に活動した他の子供達には、kyoumei 内で使用できるポイントを付与し、学習目的や寄付などに活用可能にする。

【政策提言】

上記事業を通じて、「音楽」の社会的な影響について調査・研究を実施する。研究成果を基に、行政や高等教育機関及び企業などに対して政策提言を行う。

4. Kyoumei の活動実績

2015年2月にNPO法人ETICが主催する社会起業家、ソーシャルスタートアップを支援するコンテスト「SUSAN00ⁱⁱ」に応募した。また、2015年4月にSVP（ソーシャルベンチャー・パートナーズ）東京第11回投資・協働先募集ⁱⁱⁱに対して応募した。双方とも採択には至らなかったが、面談などを通じて kyoumei の事業運営について有益な示唆を得た。

5. Kyoumei の今後

教養が社会にとって必須であるという主張は多くの識者が唱えており、社会にも概ね受け入れられている。しかしながら、実際に個人がどのように教養に対して接し、修得しているかについては、大きく異なっているように思える。音楽を始めとした様々な教養を有した個人が集合することにより、多様な価値観を有した豊かな社会が形成されると考える。

今後、音楽を含む教養が、kyoumei の事業を通じてどのように社会に貢献していくかを検討していきたい。

<文献>

町田洋次, 2000, 社会起業家「よい社会」をつくる人たち, PHP 研究所

渡邊奈々, 2007, 社会起業家という仕事 チェンジメーカーⅡ, 日経 BP 社

文部科学省, 2009, 平成21年度文部科学白書

ⁱ NPOカタリバ, (<http://www.katariba.net/>)2015年6月20日アクセス

ⁱⁱ NPO法人ETIC, SUSAN00 2nd-Batch, (<http://www.susanoo.etic.or.jp>)2015年6月20日アクセス

ⁱⁱⁱ SVP 東京, 2015, 第11回投資・協働先募集, (<http://www.svptokyo.org/about/news/20150306.html>)2015年6月20日アクセス